

学びのデザインシート（本時）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【作業学習】

1. 対象 特別支援学校 中学部

今年度の1学期から継続して同じ作業班に所属している。1学期の学習では、ポーチを作る活動を通して、織り機を使った製品作りの手順について学習した。またポーチを保護者にプレゼントして、喜んで受け取ってもらったり、使ってもらったりすることで、物作りのやりがいを感じ、よりたくさんの製品を作りたい、多くの人に製品を使って欲しいと感じることができた。本単元では、作業工程を分担し、製品を作り、作った製品を販売会で販売することを目的に学習を行う。

資材準備の作業工程は、生徒4人が担当する。1学期の織り機を使った活動では、作業工程の多さから教師の言葉掛けや支援を受けて、作業に取り組んだ。資材準備は、布を裂く、シャトルに巻く（付ける）など、1～2工程の比較的単純な作業であるため、少ない支援で活動に取り組むことができると想定される。

2. 単元名 「みんなで協力してお客さんに喜んでもらえる製品を作ろう」（全27時間）

3. 単元の目標

販売会に向けて製品を作ることが分かり、お客さんに喜んでもらえる製品について考えたり、きれいな製品を作るためのポイントに気をつけて製品作りに取り組んだりすることができる。

4. 言語活動

販売会の大成功はどういうことかやお客さん（保護者や教員、地域の方）が喜ぶ製品とは、どのようなものかを考えたり、話し合ったりする。

- ・作業工程の中で教師に報告や相談をする。
- ・作業の資材を友達に受け渡す。
- ・できた製品を友達と見合い、良い製品になっているか評価し合う。
- ・製品の作り方や使い方、良さ等を理解して、言葉で客に紹介する。

5. 本時の目標（以下 資材準備グループの内容）

- ・終了時刻まで繰り返し資材準備の活動に取り組むことができる。
- ・資材の準備が終わった際に、教師に報告したり、資材を次の工程の担当に渡したりすることができる。

6. 授業展開

解決したい課題や問い

ポーチやコースターを作るために、時間いっぱい資材準備をしよう。

考えるための材料

手順が分かりやすく、少ない支援で行うことのできる作業工程 ・布を裂き、籠に入れる。 ・シャトルに毛糸を巻く。 ・シャトルについた輪ゴムに裂き布を付ける。	籠の置き場所を固定する。（準備、片付け、作業中） 籠ごとに必要な資材（シャトル○本、毛糸○本）をまとめて入れる。	完成した製品を見る場面を設ける。
想定される活動		
自分から手に取り、繰り返し作業を行う。 教師に相談する回数が減り、自分で繰り返し取り組む。	準備や片付けの際に、自分で籠を取りに行ったり、しまったりする。 机上で使用する籠を固定したり、位置を決めたりすることで、工程が覚えやすい。 作業の区切りや報告するタイミングが分かりやすい。	資材準備を終えた籠を次の工程の生徒に届けたり、使い終わったシャトルの入った籠が帰ってきたりすることで、その生徒と協力して作業していることが実感できる。

	生徒に合わせたシャトルの数にすることで達成感を得ることができる。	写真カードをみることで、籠を届ける相手を自分で判断することができる。 資材準備の段階では何の製品であるか分からないが、何のために、シャトルを巻いているかが分かる。 自分たちの準備した、シャトルを使って製品ができたことが実感できる。
--	---	--

対話と思考（対話を通した協働的な問題解決のプロセス）

- ・導入（5分） 掲示物や完成している製品を見ながら作業の目的と製品を思い出す。
「販売会のために、ポーチを作っている。今日も毛糸を巻こう。」
- ・活動（50分） 準備、作業に必要な物を準備し、机の上に置く。
籠を用意し、中に入っている資材準備を行う。（毛糸を巻く、付ける）
「〇さんが作るポーチの糸の準備だ。」
籠の中の資材準備が終わったら、教師に報告する。
「籠の中のシャトル3本が巻き終わった、教師に報告しよう。」
次の工程を担当する生徒に籠を受け渡す。
「写真に書いてある〇さんが次の担当だ。届けよう。〇さんよろしく。」
次の籠を用意し、繰り返し作業工程に取り組む。
班長の合図を聞いて、片付けをする。「終わりだ。籠をしまおう。」
- ・振り返り（10分） 教師と1時間で準備し終えた籠の数を確認する。
終礼で完成した製品を見る。
「準備した毛糸が製品になっている。嬉しい。」

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・一時間でたくさんシャトルを巻いて（付けて）、次の人に籠を届けることができた。
- ・準備したシャトルが製品になった。（他の生徒と協力して製品ができた！）